

1. 史跡・遺跡調査結果の概要

(甲府北部史跡・遺跡調査委員会(中間取りまとめ*)の概要)

*: 出典:「新山梨環状道路(北部区間)環境レポート 平成14年9月 国土交通省甲府工事事務所」

1.1 背景と調査目的

甲府北部地域は自然や歴史、文化の豊かな地域であり、特に武田氏館跡や横根・桜井積石塚古墳群など、歴史的価値の高い史跡や遺跡が多数存在する。

これらを踏まえ、道路計画を考える上での基礎資料とするため史跡・遺跡の現況を把握することを目的として、甲府北部史跡・遺跡調査委員会が運営された。

1.2 甲府北部地域の埋蔵文化財

埋蔵文化財について、山梨県及び各市町村の教育委員会より資料を収集整理した。

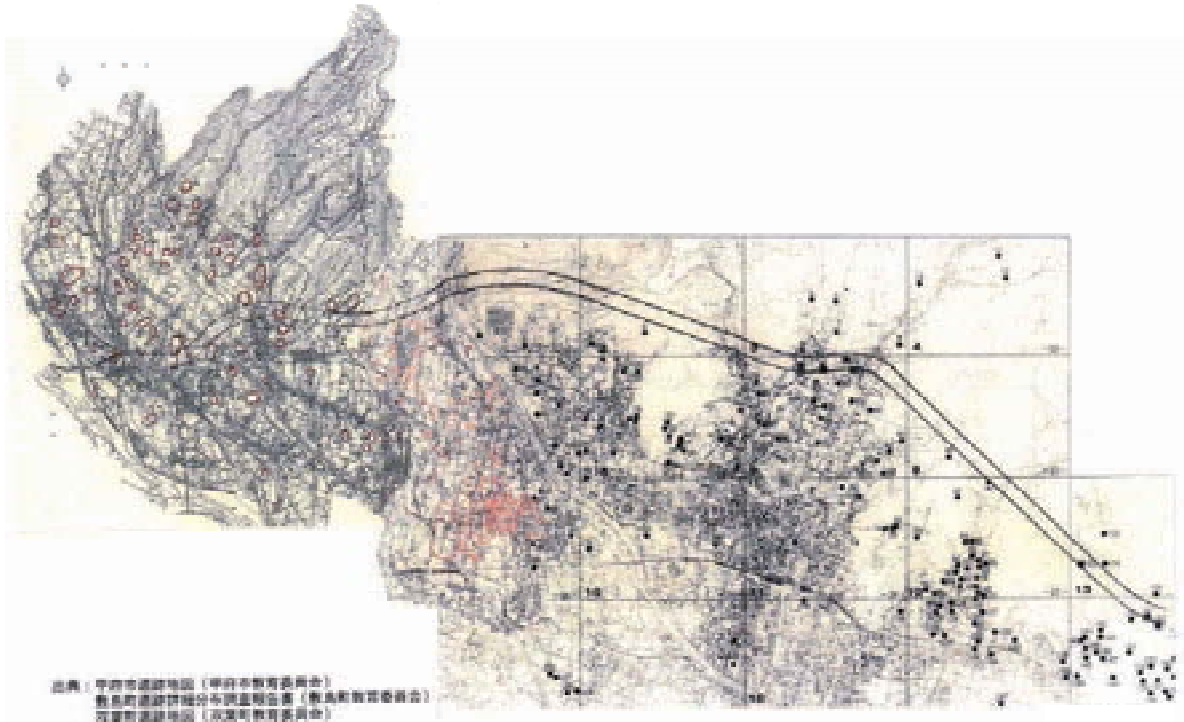


図1-2-1 甲府北部地域の埋蔵文化財

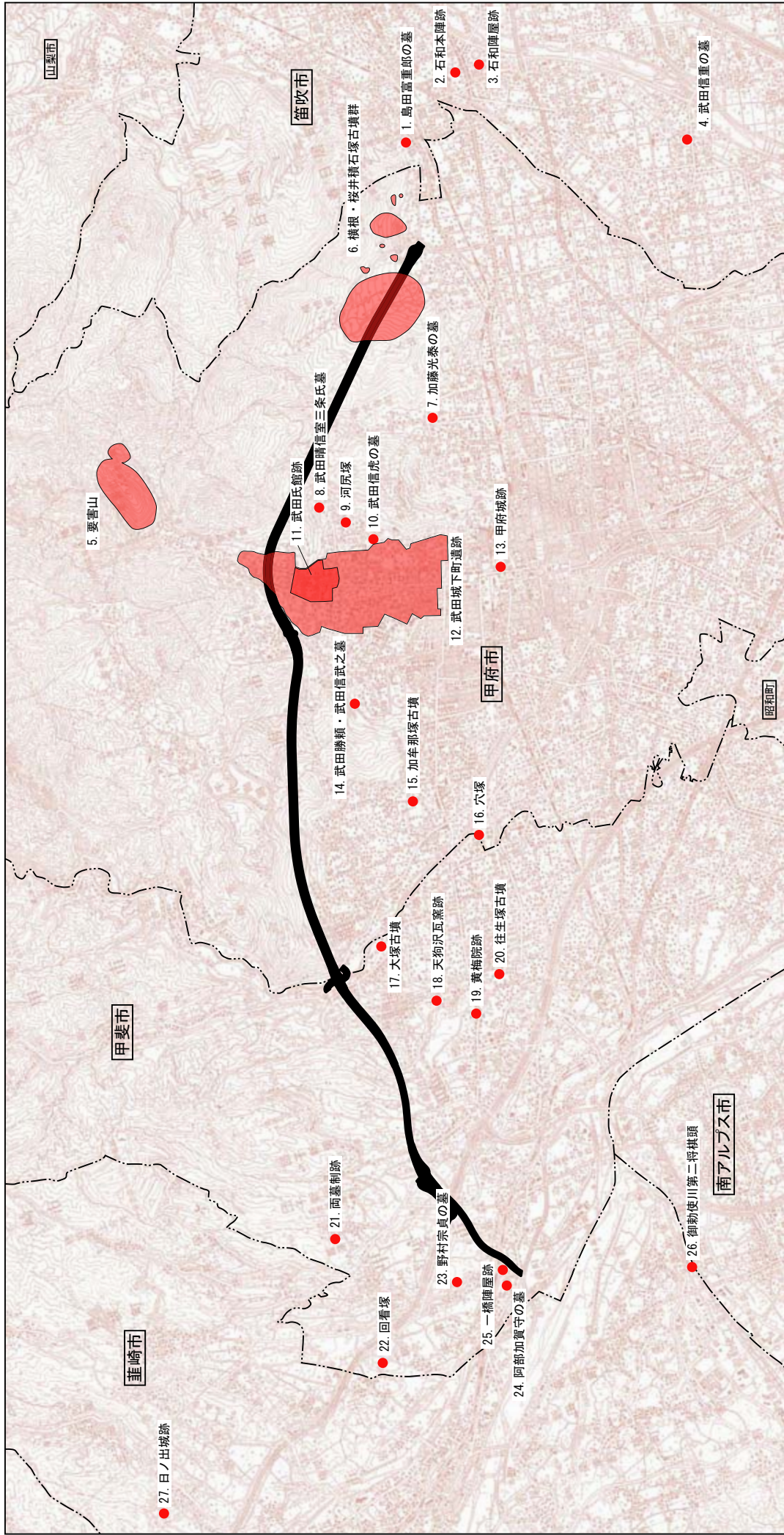
1.3 甲府北部地域の記念物（史跡）

1.3.1 史跡の名称及び位置

「文化財保護法」（昭和25年5月30日法律第214号）第六十九条第1項及び第九十八条第2項の規定により指定されている史跡について、山梨県及び各市町村の教育委員会より資料を収集し整理した。これらの位置を、表1-3-1及び図1-3-1に示す。

表1-3-1 文化財（史跡）一覧

No.	名 称	市町名
1	島田富重郎の墓	石和町（笛吹市）
2	石和本陣跡	石和町（笛吹市）
3	石和陣屋跡	石和町（笛吹市）
4	武田信重の墓	石和町（笛吹市）
5	要害山	甲府市
6	横根・桜井積石塚古墳群	甲府市
7	加藤光泰の墓	甲府市
8	武田晴信室三条氏墓	甲府市
9	河尻塚	甲府市
10	武田信虎の墓	甲府市
11	武田氏館跡	甲府市
12	武田城下町遺跡	甲府市
13	甲府城跡	甲府市
14	武田勝頼・武田信武之墓	甲府市
15	加牟那塚古墳	甲府市
16	穴塚	甲府市
17	大塚古墳	敷島町（甲斐市）
18	天狗沢瓦窯跡	敷島町（甲斐市）
19	黄梅院跡	双葉町（甲斐市）
20	往生塚古墳	双葉町（甲斐市）
21	両墓制跡	双葉町（甲斐市）
22	回看塚	双葉町（甲斐市）
23	野村宗貞の墓	双葉町（甲斐市）
24	阿部加賀守の墓	双葉町（甲斐市）
25	一橋陣屋跡	双葉町（甲斐市）
26	御勅使川第二将棋頭	韮崎市
27	日ノ出城跡	韮崎市



凡例

記号	名称
●	史跡

市町界
 都計画対象道路事業実施区域

1/50,000

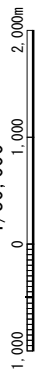


図1-3-1 文化財(史跡)位置図

出典：「石和町の文化財一覧」平成13年5月 石和町教育委員会
 「甲府市の文化財一覧」平成13年5月 甲府市教育委員会
 「双葉町の文化財要覧」平成10年3月 双葉町教育委員会
 「敷島町の文化財」平成13年3月 敷島町教育委員会
 「韮崎市の文化財」平成13年5月 韮崎市教育委員会
 八田村文化財資料 平成13年1月現在
 竜王町文化財資料 平成13年1月現在
 春日居町文化財資料 平成13年1月現在
 山梨市文化財資料 平成13年1月現在

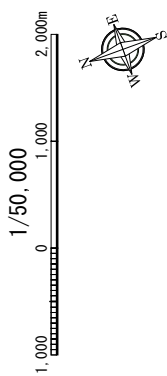
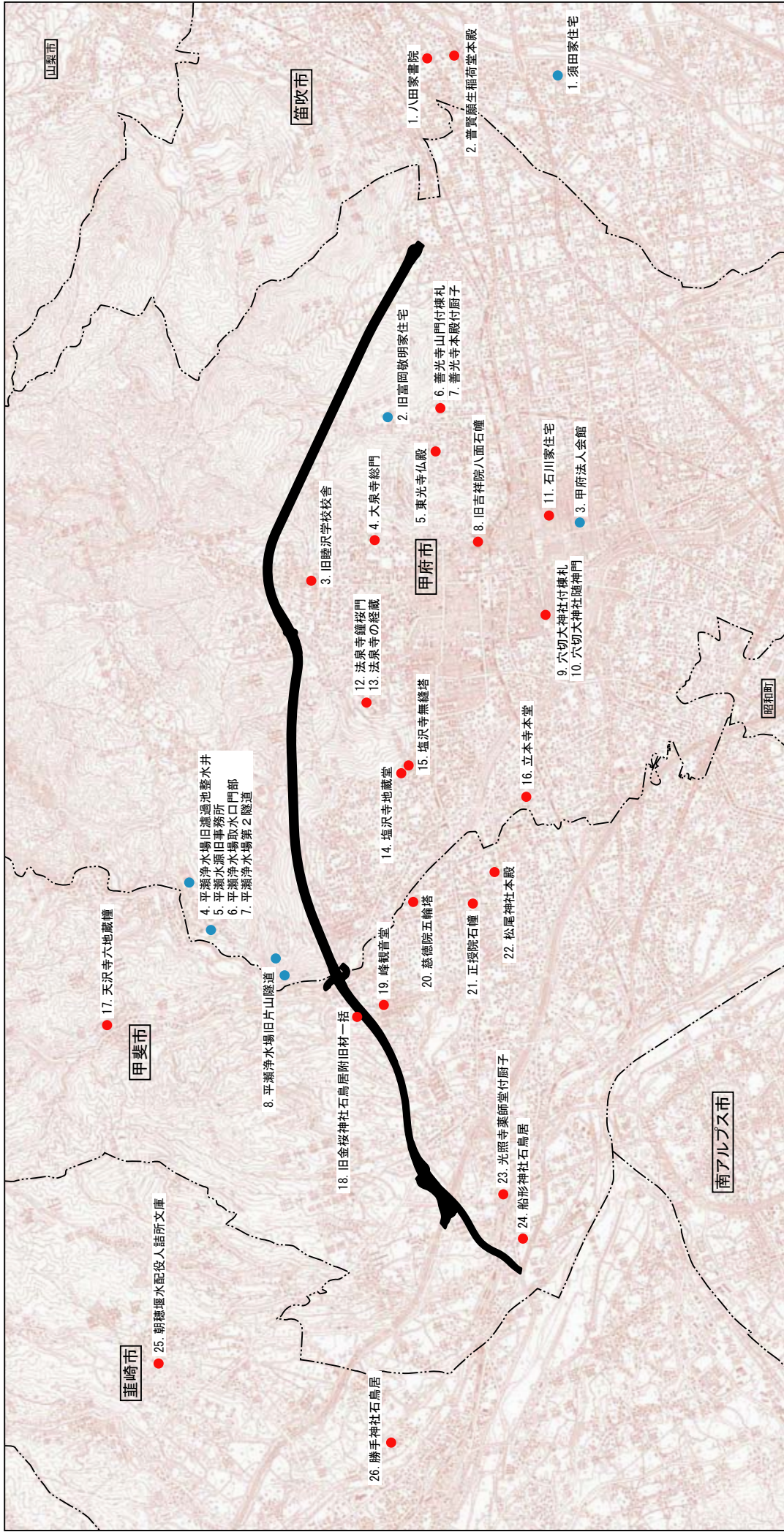
1.4 甲府北部地域の有形文化財（建造物）

1.4.1 有形文化財の名称及び位置

「文化財保護法」（昭和25年5月30日法律第214号）第二十七条及び第九十八条第2項の規定により指定されている有形文化財（建造物）について、山梨県及び各市町村の教育委員会より資料を収集整理した。これらの位置を、表1-4-1及び図1-4-1に示す。

表1-4-1 有形文化財（建造物）一覧

種別	No.	名 称	市町名
指定文化財	1	八田家書院	石和町（笛吹市）
	2	普賢願生稻荷堂本殿	石和町（笛吹市）
	3	旧睦沢学校校舎	甲府市
	4	大泉寺総門	甲府市
	5	東光寺仏殿	甲府市
	6	善光寺山門付棟札	甲府市
	7	善光寺本殿付厨子	甲府市
	8	旧吉祥院八面石幢	甲府市
	9	穴切大神社付棟札	甲府市
	10	穴切大神社随神門	甲府市
	11	石川家住宅	甲府市
	12	法泉寺鐘桜門	甲府市
	13	法泉寺の経蔵	甲府市
	14	塩沢寺地蔵堂	甲府市
	15	塩沢寺無縫塔	甲府市
	16	立本寺本堂	甲府市
	17	天沢寺六地藏幢	敷島町（甲斐市）
	18	旧金桜神社石鳥居附旧材一括	敷島町（甲斐市）
	19	峰観音堂	敷島町（甲斐市）
	20	慈徳院五輪塔	敷島町（甲斐市）
	21	正授院石幢	敷島町（甲斐市）
	22	松尾神社本殿	敷島町（甲斐市）
	23	光照寺薬師堂付厨子	双葉町（甲斐市）
	24	船形神社石鳥居	双葉町（甲斐市）
	25	朝穂堰水配役人詰所文庫	韮崎市
	26	勝手神社石鳥居	韮崎市
登録文化財	1	須田家住宅	石和町（笛吹市）
	2	旧富岡敬明家住宅	甲府市
	3	甲府法人会館	甲府市
	4	平瀬浄水場旧濾過池整水井	甲府市
	5	平瀬水源旧事務所	甲府市
	6	平瀬浄水場取水口門部	甲府市
	7	平瀬浄水場第二隧道	甲府市
	8	平瀬浄水場旧片山隧道	甲府市



凡例

記号	名称
● (Red)	指定文化財
● (Blue)	登録文化財

市町界
 都市計画対象道路事業実施区域

出典：「石和町の文化財一覽」平成13年5月 石和町教育委員会
 「甲府市の文化財一覽」平成13年5月 甲府市教育委員会
 「双葉町文化財要覽」平成10年3月 双葉町教育委員会
 「敷島町の文化財」平成13年3月 敷島町教育委員会
 「葦崎市の文化財」平成13年5月 葦崎町教育委員会
 八田村文化財資料 平成13年1月現在
 竜王町文化財資料 平成13年1月現在
 春日居町文化財資料 平成13年1月現在
 山梨市文化財資料 平成13年1月現在

図1-4-1 有形文化財（建造物）位置図

1.5 都市計画対象道路事業実施区域周辺の埋蔵文化財

都市計画対象道路事業実施区域周辺の埋蔵文化財は表1-5-1に示すとおりである。

表1-5-1 埋蔵文化財一覧表

名 称	市町名
西前田 B 遺跡	甲府市
御馬屋小路 A 遺跡	甲府市
不動遺跡	甲府市
日影遺跡	甲府市
横根積石塚古墳群西支群	甲府市
清水遺跡	甲府市
中組遺跡	甲府市
峯 B	敷島町 (甲斐市)
村元	敷島町 (甲斐市)
上ノ段 C	敷島町 (甲斐市)
山の神遺跡	双葉町 (甲斐市)
久保入遺跡	双葉町 (甲斐市)
4 号古墳	双葉町 (甲斐市)
一橋陣屋跡	双葉町 (甲斐市)

1.6 都市計画対象道路事業実施区域周辺の留意すべき史跡・遺跡

1.6.1 横根・桜井積石塚古墳群

1) 概説

甲府市指定史跡 平成11年7月21日

所在：甲府市横根町・桜井町一帯



横根積石塚古墳群西支群第39号墳



横根積石塚古墳群発掘調査風景

青梅街道（現道国道140号）から北方には、横根町の八人山、石和町（笛吹市）の大蔵経寺山の間には挟まれた緩やかな傾斜面があり、中央を大山沢川が流れていて、小扇状地を形成している。この一帯は、古代には大変栄えていた地域であったらしく、ぶどう畑の中にその名残を伝える土師器（古代の土器）が多く散在している。全国的にも有名になった横根・桜井積石塚古墳群は、この傾斜を利用してつくられ、現在でも雑木林の中に眠る140基以上の古墳が往時の面影を伝えている。

積石塚古墳は、こぶし大から人の頭ぐらいの大きさの石を積みあげて墳丘をつくり、その内部に遺体を納めるための石室をもつ古代の墓のことだが、当時我が国では土を盛り上げてつくる墓が一般的なため、どのような人々がつくったのか論争的になっている。

最近の発掘調査では、実態が少しずつわかってきており、研究結果によると、少なくとも六世紀末ごろには既にこの地域の積石塚古墳は築かれており、石室内には一般の土盛りの古墳と同じように、鉄の鍬や古代の耳飾りの金環類、日常生活用具である土器類が埋納されていることがわかった。（出典：北山野道 平成元年5月 甲府市教育委員会）

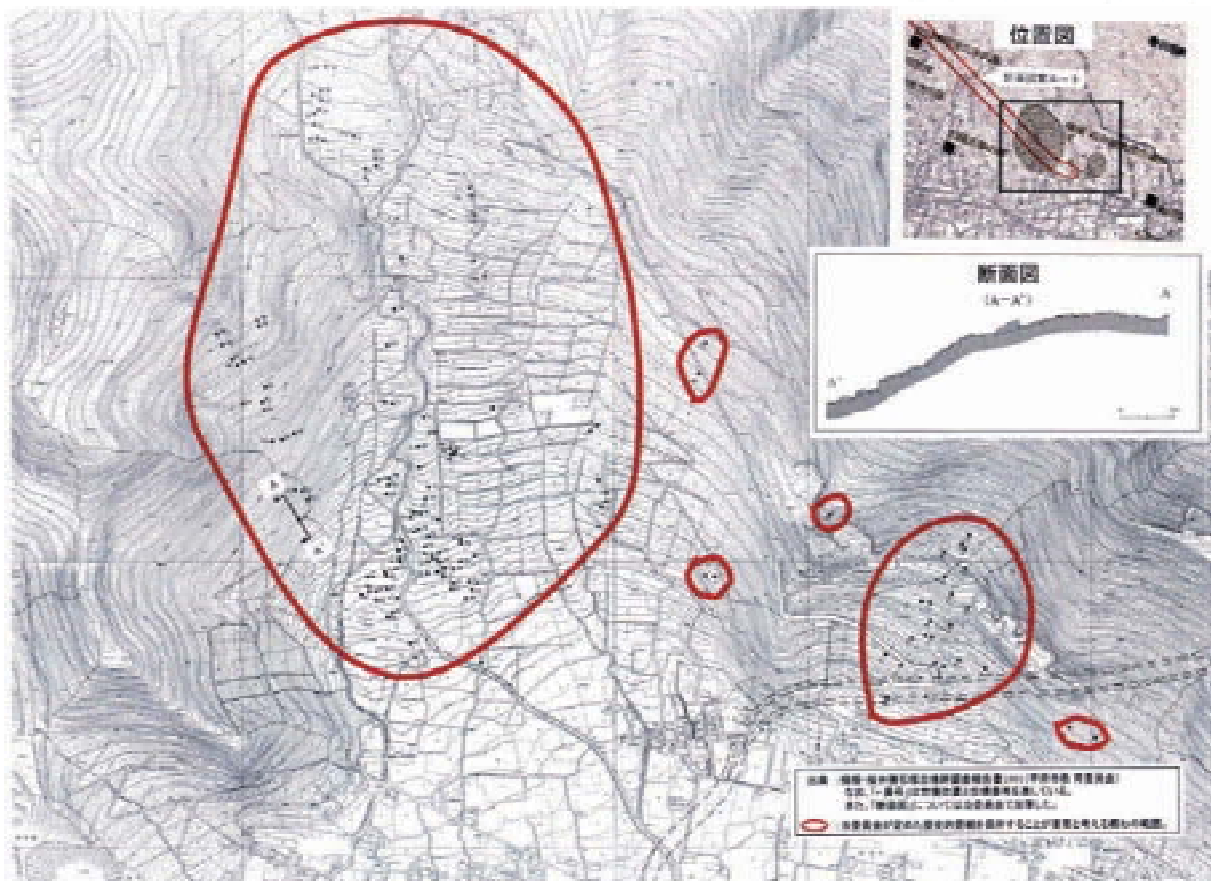


図1-6-1 横根・桜井積石塚古墳群位置図

2) 中間とりまとめ

- ・横根・桜井積石塚古墳群は、各古墳の位置はほぼ解明されているが、未発見の古墳もある。
- ・横根・桜井積石塚古墳群は、重要な遺跡であり、その重要度から、今後、県や国の指定も考えられる。
- ・積石塚古墳群として、現状の歴史的景観を保存することが重要である。その範囲は概ね図1-6-1に示すとおりである。
- ・当地に大規模な構造物が想定されるなら、各古墳の保存のためには、地下2メートル程度まで保護する必要がある。

1.6.2 武田氏館跡

1) 概説

国指定文化財 昭和13年5月30日指定

所在：甲府市下積翠寺町・古府中町・大手三丁目・屋形三丁目他



武田氏館跡大手門

武田氏館跡の内堀

武田神社は、戦国の雄、武田信虎・信玄・勝頼と続く武田氏三代の居館の跡である。躑躅（つつじ）が崎の尾根の突端部の名を付けて「躑躅が崎館跡」とも呼ばれている。

館跡の中心は東西284m、南北193mの堀に囲まれた部分。東・中・西の三つの曲輪（くるわ＝区画）に分かれていた。東曲輪と中曲輪とを区切っていた石塁は、神社が鎮座した時になくなったが、中曲輪と西曲輪の間は堀と土塁で区切られ、小さな土橋でつながっている。館跡内に入る橋は南に二つ、東に一つ、北に二つあるが、もともと現在の正面のかけ橋はなく、東側の入り口が正面玄関（大手門）になっていた。

館跡の北口に続く田は、北曲輪と呼ばれる地域。やはり堀と土塁に囲まれていた。南西部に松木堀（まつきぼり）と呼ばれる堀があるが、その内側も梅翁（ばいおう）曲輪と呼ばれていて、やはり屋敷の一部を形成していた。

武田家の家臣団のうち有力な家来の屋敷跡も、現在の大手三丁目、屋形三丁目、古府中町に広がり、全体の総面積は約17haに及ぶ。館跡の北2kmには要害山（要害城）があり、戦国時代の日本を代表する山城である。（出典：こうふ文化財ウォッチング 昭和62年3月 甲府市教育委員会）

2) 中間とりまとめ

- ・中世武田城下町遺跡は、試掘により文化財が発見されれば、十分な調査が必要である。
- ・中世武田城下町遺跡では、地下の遺構としては屋敷跡や寺社遺構が最大と考えられ、その深さは30センチ～3メートルと想定される。
- ・武田氏館跡から要害城は一体的な歴史的景観をなしているため、現状の景観を保存することが重要である。

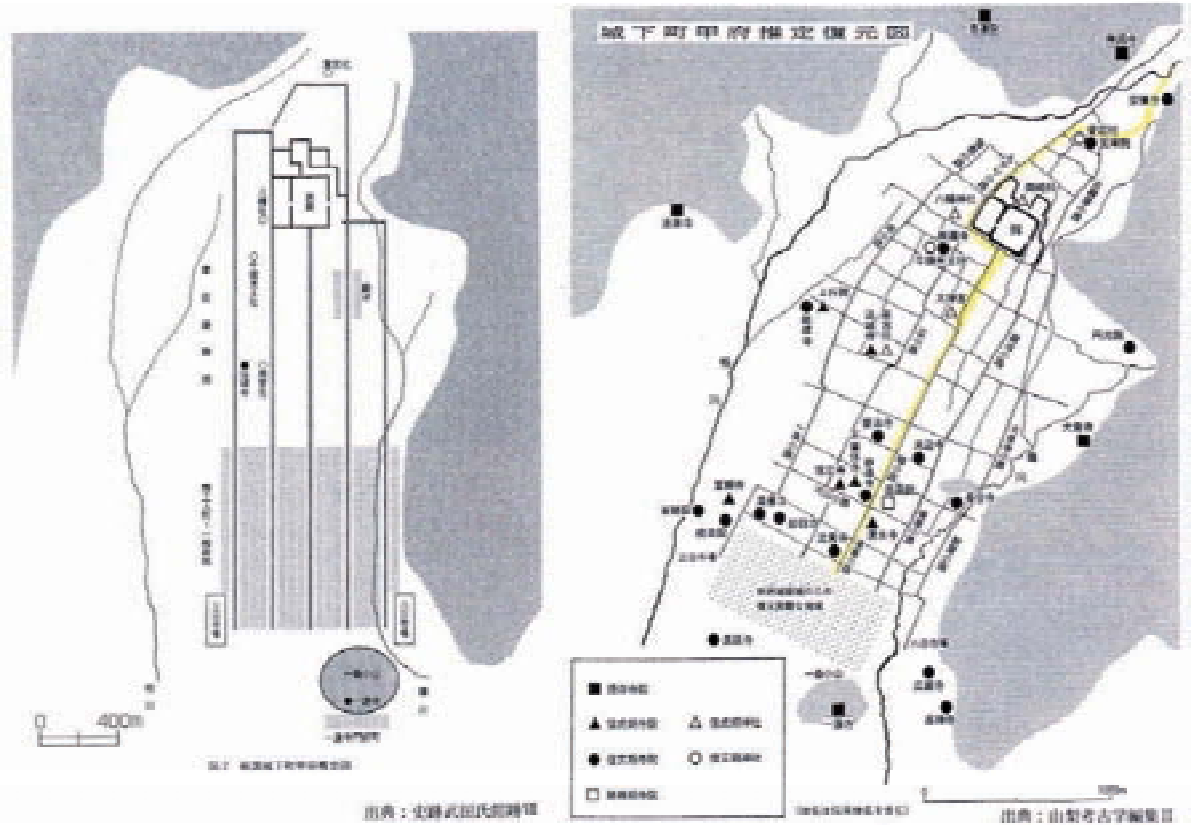


图1-6-2 战国甲府城下町概念图

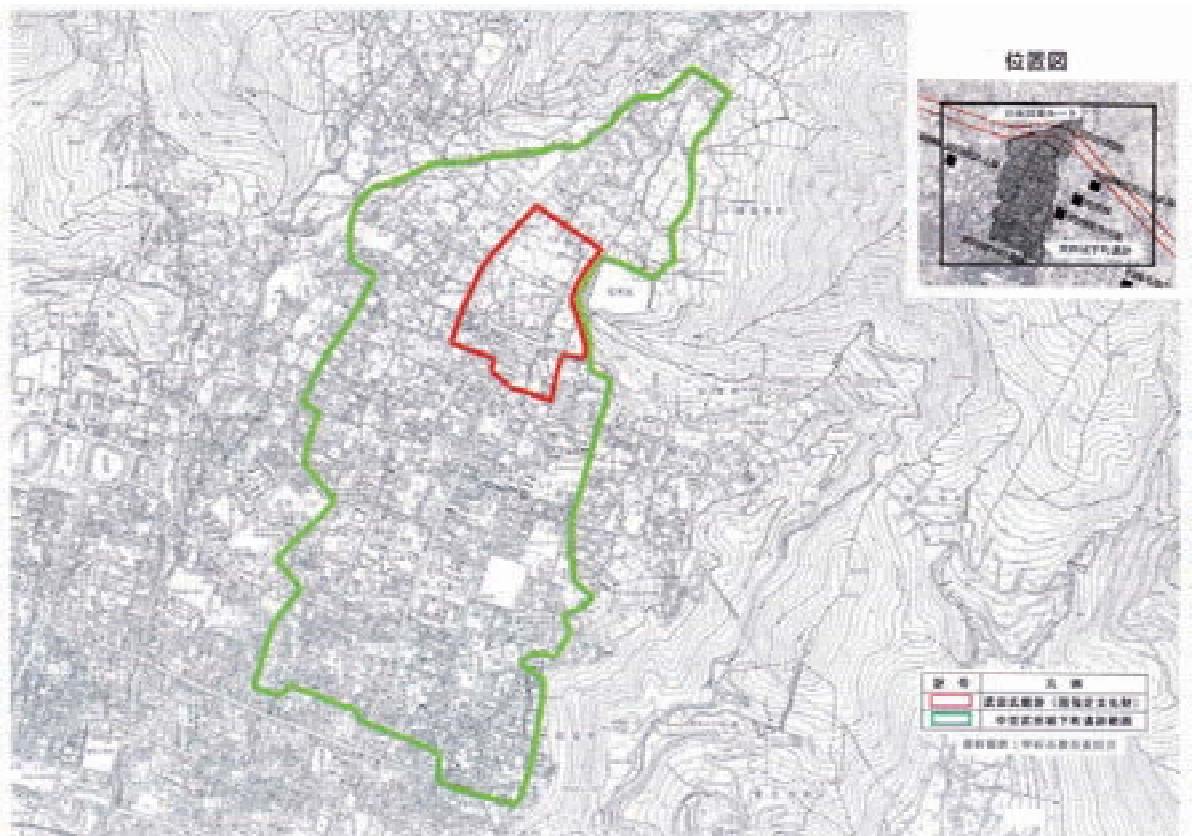
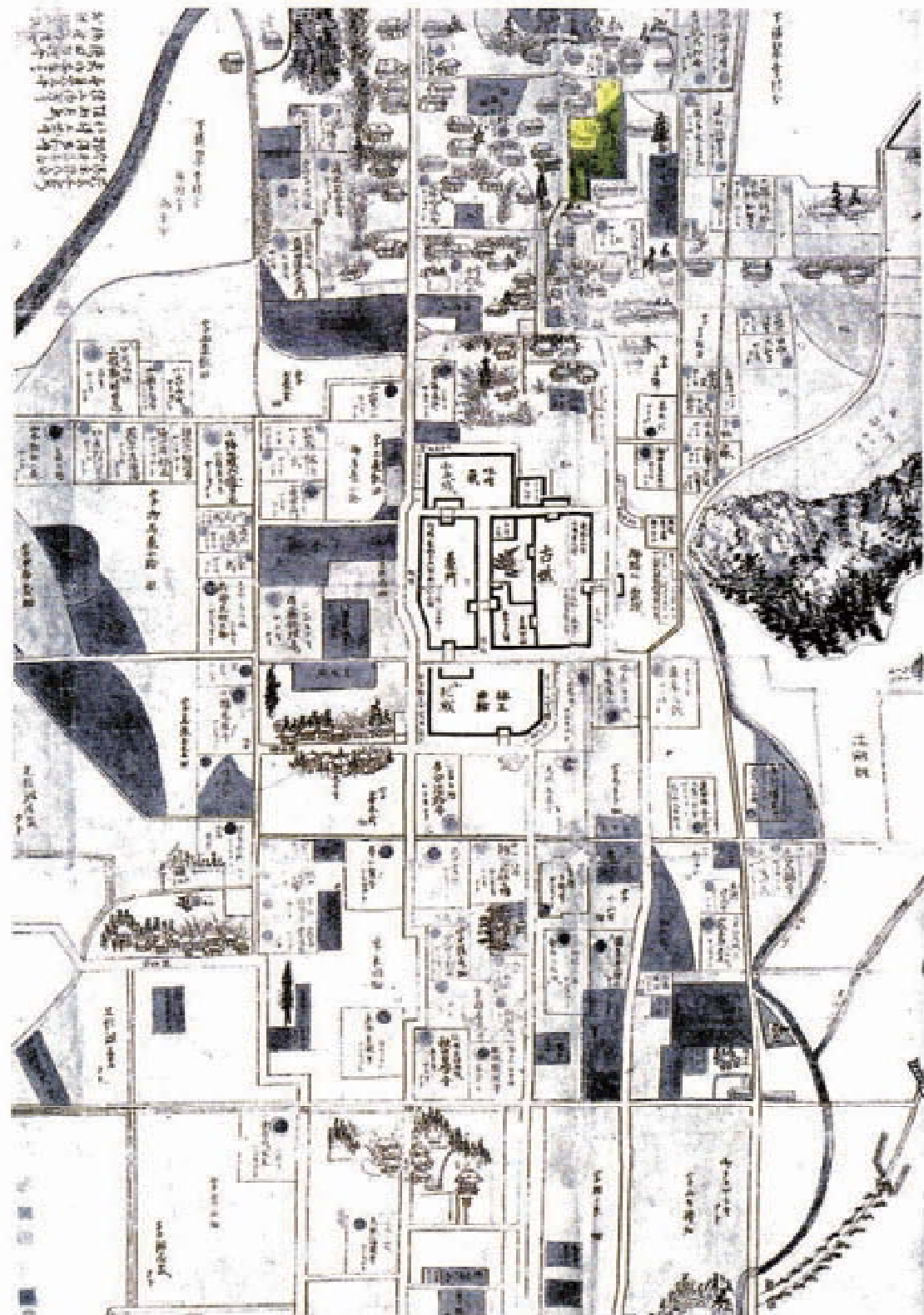


图1-6-3 武田氏館跡位置图



古府中村絵図（貞享3年の絵図を安政4年に複写、中沢泉氏蔵）

出典：史跡武田氏館跡Ⅶ

図1-6-5 古府中村絵図

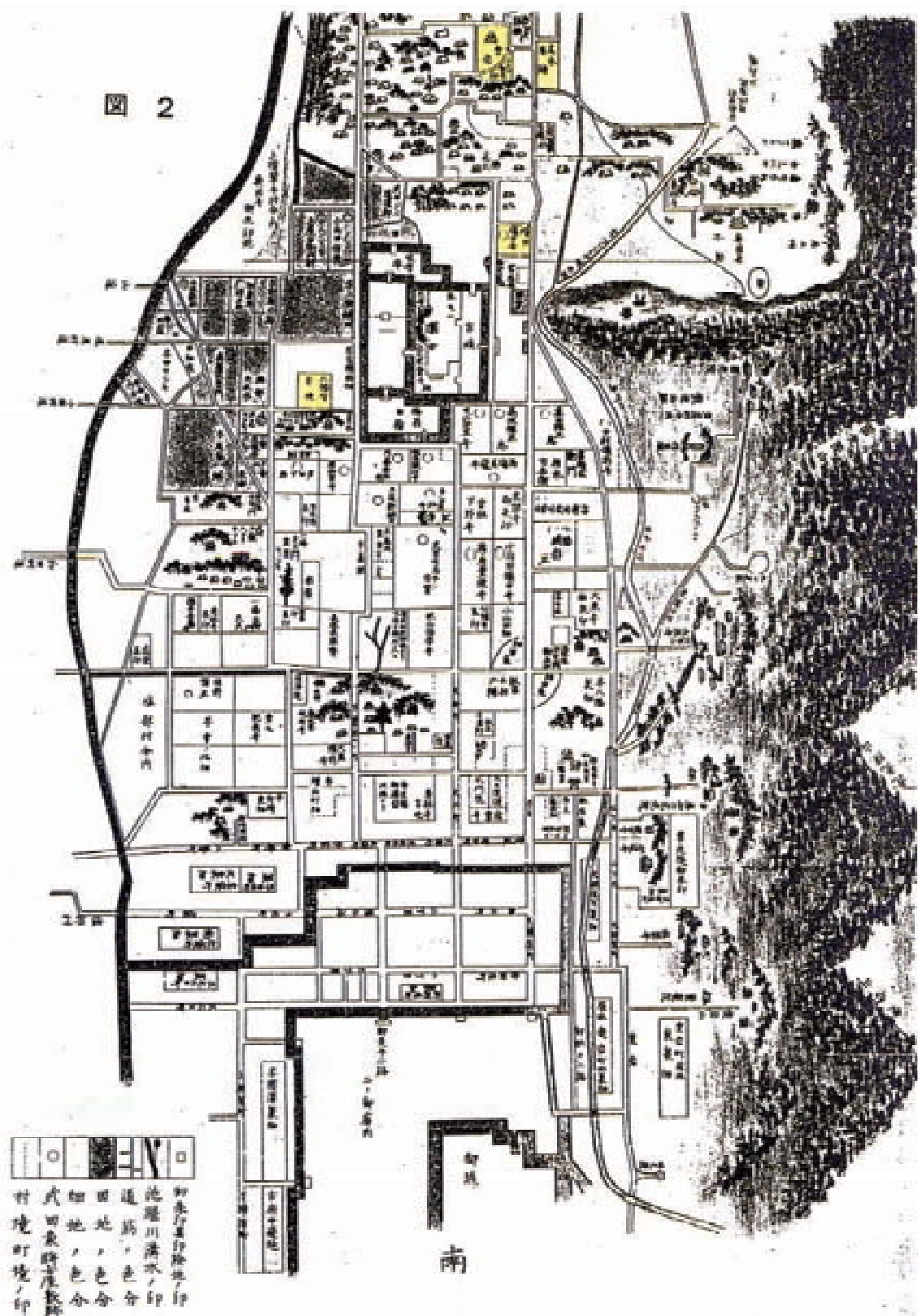


图1-6-6 武田家将士屋敷跡位置图

1.6.3 一橋陣屋跡

1) 概説

甲斐市指定史跡 昭和50年10月7日

所在：甲斐市宇津谷921-1



一橋家は田安家・清水家とともに徳川御三卿と称し、御三家に次ぐ将軍継承権を持つ家柄として、元文5年（1740）に8代将軍吉宗の第4子宗尹（むねただ）が江戸城内一橋門内に屋敷を与えられ、延享3年（1746）甲斐・武蔵・和泉国に10万石が与えられた。

甲斐国には巨摩郡を中心に3万石の領地があり、その陣屋（代官所）が宇津谷村妙善寺前に7年間置かれた。陣屋は宝暦3年（1753）に河原部村（韮崎市）、更に寛政13年（1801）に遠江国相良村（静岡県相良町）に移された。

一橋家からは家斉（いえなり）が11代将軍に、水戸家から養子に入った慶喜（よしのぶ）が15代将軍になっている。（出典：甲斐市文化財案内）

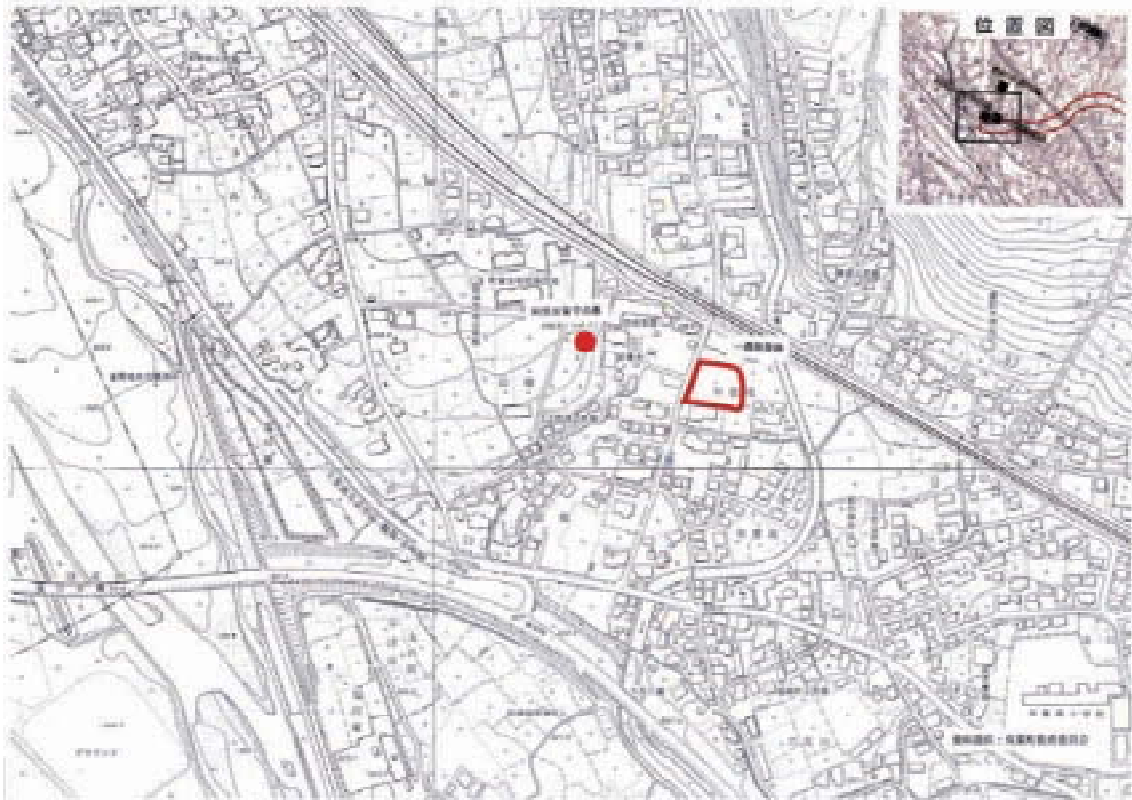


図1-6-7 一橋陣屋跡位置図

2) 中間とりまとめ

- ・ 陣屋跡の指定範囲は、保護する必要がある。
- ・ 指定範囲周辺については、試掘により文化財が発見されれば、十分な調査が必要である。